

発言No. \_\_\_\_\_

受付No. \_\_\_\_\_

令和 3 年 2 月 15 日  
時 分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 14 番 氏名 岡 本 正 友

答弁を求める者  市長  教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
(口をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1. 寒冷凍結災害の課題及びドローンの活用と人材育成について

##### (1) 寒冷凍結災害の課題と支援システムについて

1月7日からの寒冷注意予報下、中山間地をはじめ市水道給水管の凍結や破裂による断水が多発した。また小規模自家用水道(集落沢水・井戸水)の施設においても、同じようなトラブルが起きている。ここ数年の寒冷気候による同じような自然災害は、住民生活に大きな影響を与えている。加えて、限界集落のさらなる高齢化によって、新たな問題が発生していることから、以下質問をする。

- ① この度の市水道管の寒冷凍結災害の実態と課題からの対応策について問う。
- ② 用水は、住民生活に必要不可欠なライフラインである。しかし水道事業の管理外である集落沢水・井戸水への担当課の関わりが、非常に希薄であると思っている。中山間地では、急速な高齢化による組織力や自助力が衰退していることから、この度の凍結等のトラブルにおいて、対応しきれない状況である。集落沢水・井戸水の実態と市の支援の現状を問う。

##### (2) ドローンを活用できる人材育成について

- ① 災害時にドローンが活躍するニュースを見る。他にも農業部門や土木・建築、林業調査や海岸調査などその活用の範囲は広く、手頃な経費で簡単に実施できるのがメリットであるドローンの活用について認識を問う。
- ② ドローンは空の産業革命と言われている。より情報化の進化からその利用度が上がるものと思っている。民間のみならず、行政においてもその活用策から必要であると考え、ドローンの導入とオペレーター(パイロット)の人材育成について所見を問う。

## 2. 教職員の働き方改革と部活動支援の人材育成について

これまで、働きすぎる日本に対して、国連の WTO や諸外国からの指摘により、労働時間を短縮するなど、さまざまな働き方改革の政策が施行されてきた。その時短によって、国民の生活が豊かになった反面、ゆとり教育や非正規職員などの労働環境に多大な課題を残してきた。今取り組んでいる働き方改革が、かつてのものづくり日本の崩壊を導いた多くの苦い経験を忘却することがないよう、課題を並列においた教育環境向上の施策を図るべきと思って以下質問をする。

### (1) 学校における働き方改革について

- ① 文科省の方針に基づき、教職員の長時間勤務が常態化していることから、長時間勤務の是正及びワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の適正化を図ることを目的に「教職員の働き方改革プラン」の策定に取り組んでいると認識している。浜田市の取組状況を尋ねる。
- ② 働き方改革の成果と課題そして今後の展開を問う。

### (2) 部活動指導員の任用について

- ① 働き方改革に合わせて、教員の多忙化の大きな要因となっている公立学校の部活動についても「部活動指導員」導入・実施の改革を進められている。他市の取組状況について問う
- ② 「部活動指導員」の大学生(県大生)任用の考え方について問う

### (3) 社会体育「総合型地域スポーツクラブ」と部活動について

- ① 他市では、取り組む部活動を学校教育の一環として位置付けながら、地域の人々との協力や、社会教育団体等の各種団体との運営上の必要性を工夫しながら連携を図っていると聞く。当市の体育協会の取組状況について問う。
- ② 人的社会資源であるUIターン者や定年退職者などの部活動指導員としての任用について問う。
- ③ 国体は国民スポーツ大会に呼称が変わり、10年後の開催に向けて競技種目と会場等の調査が進んでいる。当市が開催を希望する競技について問う。